

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278100249		
法人名	医療法人社団藤花会		
事業所名	花平の郷		
所在地	浜松市北区引佐町半平725-1		
自己評価作成日	平成 29年 11月 28日	評価結果市町村受理日	平成30年 2月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2278100249-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年 12月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居様が明るく楽しくのんびりと生きがいのある生活を送ってもらえるよう、職員自身が明るくケアに当たるように努めている。廊下に職員の飛び切りな笑顔の写真を掲示し、「笑顔で頑張るぞ！」等、自身へのエールも添え、常に意識できるようにしている。「安全」と「自由」のバランスに気を配り、『自分だったら・・・』『自分の家族だったら・・・』を意識しながら対応に当たる様に心掛けている。

施設は自然豊かな静かな環境にあって利用者は畑で野菜作りに関わったり、自由に職員と一緒に外へ出て庭のベンチに座りお花を見たりお茶を飲んだりの穏やかな生活を送っている
玄関にデジタルフォトが設置され施設の日常生活写真が映され、家族等の来所時にはアルバムと共に一緒に生活メモリーを見ることが出来、利用者・家族から喜ばれている。職員は理念に副った支援を常に意識し自ら共に楽しんで介護業務に励んでいる。ユニット入り口に職員の満面の笑顔の写真と自身に向けた「笑顔でがんばれ」のエールを記入してあり、見直し統一した支援に繋げている。入浴時間は家庭生活と同じように15時30分から好きな時間を考慮し、介助の必要な人には2人対応で安全に湯船に浸かれるように支援している。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の皆様から愛される施設」を理念に掲げ、新規職員へのオリエンテーション時に説明している。全職員に対しても資料を配布し、また普段から意識できるように、目立つ個所へ資料を掲示している。	開設時より管理者と職員とで法人の理念に付随して作成した事業所理念を全職員で共有している。毎年各ユニットごとで「利用者と職員が楽しく笑顔で過ごせる」目標を立て、半期で評価をしている。タイムカードの所に掲示し毎日確認をして努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域が主催されるお祭りや運動会などへの参加や地元の防災訓練・草刈り等へも可能な限り参加させていただいている。施設周辺の草刈りや門松作りは地元シニアクラブの方々をお願いしている、	同一敷地内のケアセンターへ地域のボランティアの訪問の催しや敬老会などに参加している。地元の理髪店の協力や畑の野菜作りのアドバイスなどがあり、「ほうずきや季節の花」などの差し入れがある。地域の役員等の全参加者に運営推進会議の後施設内を見てもらい理解してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や民生委員を通じて、認知症に対する講演など協力できることはないか、と相談している。今年は浜松市ロータリークラブの会合の中で認知症についての話をさせていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開始以来2か月に1度の開催を続けている。施設での取り組み状況の説明、地元からの情報などお互いに共有できるよう話し合いを行っている、参加されなかったご家族へは後日、資料を送り内容をお伝えしている。	行政職員・民生委員・自治会長・高齢者支援センター職員・シニアクラブ代表等の参加があり、2ヶ月に1度の開催をしている。現状・行事報告の後、参加者からの質疑に答え意見をサービス向上に活かしている。議事録は家族に送付はされているが、家族・利用者の参加は殆どない。	議題の工夫や曜日・時間の調整を行う等して、家族や利用者の参加を得てのより良い会議の開催に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	離設マニュアルを作成する際には、地元の警察署や消防署にも協力をお願いした。離設があった場合に備え、地元で営業されている方々へも緊急時のFAX通信など、協力を依頼している。	29年は5年毎のグループホーム運営更新申請時期で、更新手続きに窓口に行き質問や情報・法律上の確認をして、運営規定の見直しに繋がった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の委員会に参加し、全職員に対し報告及び情報共有に努めている。入居そのものがその方の自由と行動の制限していることを職員は自覚し、日々のケアに努めている、	玄関は開錠しており、「行きたい」という本人の思いを尊重し、一緒に出かけている。夜間の不穏時には安全を守る為に早めに声掛けしゆっくり過ごして頂くよう対応している。月1回のユニット会議でヒヤリハットや事故報告の原因・対策を話し合い、拘束しないケアに努めている。	

静岡県(花平の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の委員会に出席し、虐待について全職員に対し指導している。スピーチロックなど無意識に行っていないか、職員同士で注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	担当職員を決め、研修に参加している。今年度は研修への参加が出来ていないが、家族の会にてご家族へ制度の説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の段階で契約の説明は行い、不安や疑問の解消に努めている。改定等があればその都度書面に置いてお知らせし、面会時に詳しく説明した上で同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも声を掛けて頂ける雰囲気作りに努めている。また意見箱の設置や、家族の会でのアンケートを通じて、意見や思いを確認させて頂いている。	家族と職員は話し易い関係で、アンケートや意見箱への記入は少ないが、会話の中から要望を聞いて、「面会時間外での対応」などの要望に応じている。職員は利用者から意見や希望を聞けるように声掛けし「誕生日に外食に行きたい」など聞いたことは検討し反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議以外でも気になっている事や提案などは出来る限り耳を傾け、施設長より法人の運営会議へ意見を提出している。また、日々の行事や毎月の企画などは、担当者の思いを優先に企画を立てている。	全職員が自分自身へのエールを添えた笑顔の写真ユニットの入り口に掲示し自分へのメッセージの提案が実行され、職員の業務に対する意識向上へと反映されている。ユニット会議で委員会から出た意見や提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員満足度が高まるように、職員意見箱を設置し、思いを確認されている。それぞれの所属長からの職員評価も確認されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に「研修教育委員会」を設置し、毎月行う全体研修や資格取得に向けての勉強会を企画している。		

静岡県(花平の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加盟し、情報を得ている。また、北区内での情報交換会に参加し他施設での取り組みなどを確認する事で質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の悩みや苦しみなどが理解出来るよう傾聴に努めている。ご家族からも意見を確認した上で、ご本人の不安の軽減に努め、信頼して頂ける関係を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩み・相談事などはしっかりと耳を傾け、不安の軽減に繋がる様な言葉掛けを行い、信頼して頂ける関係を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況・状態を把握し、その方にとって「もっとも適切なサービスが提供出来る場所はどこか」を考えながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理強いをしない程度にお願い出来る事はして頂いている。洗濯物たたみや掃除、味噌汁の味見などを依頼し、複数で楽しく行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の会にて、要望があれば介助方法や移乗方法等の勉強会を家族に対し行っている。外出などの企画に対しては毎回お知らせし、一緒に参加されるよう促しをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	明るい笑顔と言葉掛けを心がけ、面会者が来られやすい雰囲気作りに努めている。馴染みのある場所へのドライブや年賀状などを通じ、外部とのつながりが途切れない様に支援している。	職員は面会者にお茶などをお出ししながら、日々のよかったこと等の話をして気持ちよく過ごせるように配慮し、帰る時には「又来てくださいね」と声をかけている。馴染みだった「あじさい祭りに行きたい」と聞き、外出レクで計画を立て皆で出かけるなどその人馴染みの関係が継続できるよう努めている。	

静岡県(花平の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが関わりを持てるよう、気が合う同士を基本に食事の席には気を配っている。洗濯物たたみ等の仕事やレクなどを通じて関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は随時面会に伺い、状態の把握と共に、「お力に慣れる事は何か」を考え相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人から意向や要望を確認しているが、困難な場合はご家族からのバックグラウンドアセスメントを活用し、どのような生活が最良か検討している。食事会や外食・出前などはその方が食べたいものを確認し提供に努めている。	新聞やチラシ・テレビを見て発する言葉からその人の思いや好きなことなどが把握できることがある。家族から聞いている情報を元に声をかけ興味を示す度合いによって把握し、内容は連絡ノートに記入して全職員で共有して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前可能であれば、ご自宅での実際の様子を確認させて頂くと共に、バックグラウンドアセスメントによりこれまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を職員間にて毎日申し送りを行い、記録に残すことで状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員が、他の職員からの意見や病状等の変化を記入した連絡ノートをもとに、計画作成者とカンファレンスにて検討し、現状に即した介護計画を作成している。3～6ヶ月をめぐりに計画を見直しし、ご家族の意見や要望を確認した上で同意を得ている。	日々の様子を記入した連絡ノートをもとにユニット会議では変化や問題点を話し合い家族に伝え意見を聞いている。3ヶ月から半年で計画を見直し、月1回のカンファレンスで状態の変化や問題点を話し合い医師の意見を聞いて、現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録へ毎日時間を追って記載している。その他、介護日誌や連絡ノートを用い、情報の共有を図りながらケアに当たっている。		

静岡県(花平の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日会にはご家族と一緒に過ごされる時間や環境も支援している。かかりつけ医以外での受診もご家族の都合が合わなければ、施設にて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元ボランティアによる歌・踊りなどは随意受け付けている。部再訓練では消防署より訓練用消火器をお借りし、入居者と共に消火訓練も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関よりかかりつけ医を選択して頂き、職員から医師へ必要な情報を報告しながら定期的及び随時受診の付き添いを行っている。必要に応じ往診の依頼も行い、ご家族への報告も適時行っている。	利用者は3ヶ所の提携医のどれかを選択し24時間対応での安心した医療を受けられている。2ヶ所は月1回の往診があり、1箇所へは職員が対応で受診している。他科受診の付き添いも家族からの依頼があればキロ20円の有料で支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職でもあり、日々の様子と違う事があれば、すぐに連絡相談している。契約看護師への連絡や隣接する介護老人保健施設の看護師へも必要に応じ、協力を求めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	頻回に面会に伺い、状態の把握に努めると共に退院後も安心して戻ってこられるようにコミュニケーションを図っている。また、病院スタッフとも情報交換や相談をしながら関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の対応についてご家族へ説明を、食が細くなってきた時点でご家族と話し合い、改めて意向を確認している。看取りを希望されたご家族と同意書をかかわし、ターミナルケアプランを作成している。法人内の研修も行いご家族の心のケアに対しても学んでいる。	入居時に方針の説明をし施設での看取りは可能であることを伝えている。食が細くなってきた時点で家族と医師、施設長で話し合い家族から、同意書を受けている。これまで、殆どの方が施設での看取りを希望されている。医師の24時間対応が約束されていて、職員は意識が高く、ミーティング時にケアプランの説明をうけて支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿って全職員に対し、勉強会を実施している。法人全体の勉強会でも毎年行っている。		

静岡県(花平の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は避難訓練を行っている。近隣住民の方々にも参加して頂き、施設内の把握をしてもらいながら、車椅子を使った避難誘導などを行っている。目立つところへマニュアルを用意し、いつでも手に取る事が出来るようにしている。	昼間想定は買い物などで職員が少なくなっている時を想定して行っている。夜間想定で火災時に2人で緊急連絡・通報・火災報知機・初期消火などの訓練を行った。住民の参加があり、職員がダメーになって住民の方に車椅子を押してもらっての避難訓練を行い地域との協力を受けられている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職歴や生活歴を考慮し、その方の人格を尊重したうえで言葉掛けを行い、落ち着いた穏やかな対応を心掛けている。	呼び名は家族に確認し「○○さん」だが、徐々に本人の希望する「・・・ちゃん」や「おじいちゃん」などと変わってくる人もいる。不愉快にならないよう尊厳を確保した対応をしている。不適切な対応が見られたとき時間をおいて管理者から注意をするようにしている。職員間で声を掛け合い人を代える対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物やドライブなど、希望を確認した上で一緒に出掛けている。その日に着る服もご自分で選んでもらえるように声掛けをし、確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や入居者様の要望・体調を考慮し毎朝の申し送り時に統一の予定を立てている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物ができる方は衣類などの購入時、ご自分で選んで頂くようにしている。意思表示をされない方にはご家族から好みを伺ったり、自宅にあるお好きな服を持ってきて頂くように依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をたてる際に、味噌汁の具材を相談したり、買い物への参加を呼びかけをしている。味見をして頂いたり、食器の片づけなど協力して下さる方へお願いしている。毎月の手作り食事会や出前、外食などお好きなものを食べて頂いている。	惣菜は3食共隣接の施設で調理されたものが届きご飯と汁物を作っている。利用者と一緒に買い物に行ったり、畑からの収穫した野菜が食卓にのっている。職員は利用者の間に入り声掛けしたり介助して楽しく食事ができるよう支援している。食事レクやおやつ作りは利用者と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食チェックしている。嗜好も事前に確認しており、苦手なものは避けたり、食べにくい物は刻んだり、水分にトロミを付けたり、とその方に合わせた食事を提供している。		

静岡県(花平の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて歯磨きを行っている。困難な方に対しても歯科医や歯科衛生士から助言をもらいながら口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間チェック表を用い、排泄リズムを全職員が共有している。昼間はさりげない声掛けや見守りにより、トイレでの排泄を支援している。夜間はセンサー反応にてトイレ誘導や、あえてパット交換のみで対応する等その方の習慣や状態に合わせて対応している。	排泄パターンをチェック表記入で掴んでいる。失敗少なくトイレでの排泄を支援するため、時間を少し早めに声掛けし誘導する対応をしている。夜間ポータブルトイレを利用する人もいるが、夜はなるべくぐっすり休んでもらえるようにパットの大きさの配慮をしている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂って貰うように、お茶だけでなくジュースやコーヒーなど好きなものを提供している。随時便秘体操を行い、本人に合わせて下剤量もかかりつけ医と相談しながら、与薬している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴開始時間は15:30以降とし2~3日に一度は入って頂くが、入浴そのものは毎日準備し、だれでも入れる状況にしている。一般浴の他にミスト浴も完備し、状態に沿った支援をしている。	家庭生活と変わらない夕方が入浴時間で職員2人対応で安全に湯船に入っている。一般浴の困難な人は椅子に座ったまま身体全体に温かいミストシャワーをかけて湯船に入った気分が味わえるミスト浴に入っている。足浴で暖まったり、皮膚疾患の人に対しては他の利用者に配慮した対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝間着や寝具など、おれまでの習慣に合わせて、落ち着いて休まれるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ケースにそれぞれの容量を記載し、配役の都度確認している。副作用・用法については表をカルテに綴じ、いつでも確認出来るようにしている。連絡ノートに変更内容や副作用など注意事項も記載し、事前に把握ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・畑仕事・草取りなど、それまでご自宅で頑張っておられた方や、入居中も頑張って頂ける方には積極的に行って貰っている。		

静岡県(花平の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭には花壇や畑・池があり、日中自由に過ごすことができる。毎月の企画の中で外出を取り入れ、名所旧跡や花見・紅葉狩り等を行っている。誕生日会などは本人の希望に応じ、ご家族との夕食・外出も相談している。	施設の外に出てベンチに座ってお茶を飲んだり、ゆるやかな傾斜の道を散歩したり、畑の草取りや自由に過ごせる環境がある。隣接の施設に惣菜の受け取りに行ったり、外に出る機会が多い。ドライブでの外出レクや夕食にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理困難な方へも、ご家族よりお小遣いを預かり、買い物等の支払いを職員と一緒にできる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方へご家族との電話を繋ぎ、直接話をして頂いている。年賀状もご家族へ出しているが、書けない方は代筆をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットそれぞれにキッチン・リビングがあり、洋風和風の差別を付けている。南面の窓から程よい光と風が入り、ゆったりとした空間となっている。	高い天井と広いホールの窓は大きく開放的な作りになっていて、カーテンで日差しの調節をしている。クリスマス、正月、ひな祭りなど利用者と一緒に作った作品や小道具を飾って季節を感じることができる。毎日外部から委託の清掃業者が来て、清潔に保たれている。離れた場所に汚物室があり、匂いの違和感はなく優しい香料が使われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには畳の間があったり、ソファが置いてあり、ゆったり過ごせるようになっている。居室もフロアに面しており、一人になりたい時は居室で過ごしやすくなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご自宅での本人の部屋に少しでも近づけられるよう、ご家族へ部屋の見取り図を依頼し、家具の配置も相談している。馴染みのある家具を持ちこんで頂き、仏壇を備えられるなど、その方らしい居室になるように支援している。寝て過ごされる事が多い方へはご家族の写真を貼ったり、曲を流したりしている。	担当職員のアイデアで各居室の壁に簾を使い写真や表彰状、葉書き等その人らしい飾り付けがされている。各ユニットの作りは洋風と和風に分けられ、窓にカーテンと障子で違った雰囲気味わえる。家から馴染みの物を持ち込み、家族に衣替えなどの相談をして過ごしやすい環境の支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下周囲に手すりを取り付け、バリアフリーに徹している。トイレには車椅子の方が入れられる広さを確保している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278100249		
法人名	医療法人社団藤花会		
事業所名	花平の郷		
所在地	浜松市北区引佐町半平725-1		
自己評価作成日	平成 29年 11月 28日	評価結果市町村受理日	平成30年 2月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2278100249-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年 12月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が明るく楽しくのんびりと生きがいのある生活を送ってもらえるよう、職員自身が明るくケアに当たるように努めている。廊下に職員の飛び切りな笑顔の写真を掲示し、「笑顔で頑張るぞ！」等、自身へのエールも添え、常に意識できるようにしている。「安全」と「自由」のバランスに気を配り、『自分だったら・・・』『自分の家族だったら・・・』を意識しながら対応に当たる様に心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の皆様から愛される施設」を理念に掲げ、新規職員へのオリエンテーション時に説明している。全職員に対しても資料を配布し、また普段から意識できるように、目立つ個所へ資料を掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域が主催されるお祭りや運動会などへの参加や地元の防災訓練・草刈り等へも可能な限り参加させていただいている。施設周辺の草刈りや門松作りは地元シニアクラブの方々にお願いしている、		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や民生委員を通じて、認知症に対する講演など協力できることはないか、と相談している。今年は浜松市ロータリークラブの会合の中で認知症についての話しをさせていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開始以来2か月に1度の開催を続けている。施設での取り組み状況の説明、地元からの情報などお互いに共有できるよう話し合いを行っている、参加されなかったご家族へは後日、資料を送り内容をお伝えしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	離設マニュアルを作成する際には、地元の警察署や消防署にも協力をお願いした。離設があった場合に備え、地元で営業されている方々へも緊急時のFAX通信など、協力を依頼している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の委員会に参加し、全職員に対し報告及び情報共有に努めている。入居そのものがその方の自由と行動の制限していることを職員は自覚し、日々のケアに努めている、		

静岡県(花平の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の委員会に出席し、虐待について全職員に対し指導している。スピーチロックなど無意識に行っていないか、職員同士で注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	担当職員を決め、研修に参加している。今年度は研修への参加が出来ていないが、家族の会にてご家族へ制度の説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の段階で契約の説明は行い、不安や疑問の解消に努めている。改定等があればその都度書面に置いてお知らせし、面会時に詳しく説明した上で同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも声を掛けて頂ける雰囲気作りに努めている。また意見箱の設置や、家族の会でのアンケートを通じて、意見や思いを確認させて頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議以外でも気になっている事や提案などは出来る限り耳を傾け、施設長より法人の運営会議へ意見を提出している。また、日々の行事や毎月の企画などは、担当者の思いを優先に企画を立てている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員満足度が高まるように、職員意見箱を設置し、思いを確認されている。それぞれの所属長からの職員評価も確認されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に「研修教育委員会」を設置し、毎月行う全体研修や資格取得に向けての勉強会を企画している。		

静岡県(花平の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加盟し、情報を得ている。また、北区内での情報交換会に参加し他施設での取り組みなどを確認する事で質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の悩みや苦しみなどが理解出来るよう傾聴に努めている。ご家族からも意見を確認した上で、ご本人の不安の軽減に努め、信頼して頂ける関係を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩み・相談事などはしっかりと耳を傾け、不安の軽減に繋がる様な言葉掛けを行い、信頼して頂ける関係を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況・状態を把握し、その方にとって「もっとも適切なサービスが提供出来る場所はどこか」を考えながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理強いをしない程度にお願い出来る事はして頂いている。洗濯物たたみや掃除、味噌汁の味見などを依頼し、複数で楽しく行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の会にて、要望があれば介助方法や移乗方法等の勉強会を家族に対し行っている。外出などの企画に対しては毎回お知らせし、一緒に参加されるよう促しをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	明るい笑顔と言葉掛けを心がけ、面会者が来られやすい雰囲気作りに努めている。馴染みのある場所へのドライブや年賀状などを通じ、外部とのつながりが途切れない様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが関わりを持てるよう、気が合う同士を基本に食事の席には気を配っている。洗濯物たたみ等の仕事やレクなどを通じて関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は随時面会に伺い、状態の把握と共に、「お力に慣れる事は何か」を考え相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人から意向や要望を確認しているが、困難な場合はご家族からのバックグラウンドアセスメントを活用し、どのような生活が最良か検討している。食事会や外食・出前などはその方が食べたいものを確認し提供に努めている。	新聞やチラシ・テレビを見て発する言葉からその人の思いや好きなことなどが把握できることがある。家族から聞いている情報を元に声をかけ興味を示す度合いによって把握し、内容は連絡ノートに記入して全職員で共有して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前可能であれば、ご自宅での実際の様子を確認させて頂くと共に、バックグラウンドアセスメントによりこれまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を職員間にて毎日申し送りを行い、記録に残すことで状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員が、他の職員からの意見や病状等の変化を記入した連絡ノートをもとに、計画作成者とカンファレンスにて検討し、現状に即した介護計画を作成している。3～6ヶ月をめぐりに計画を見直しし、ご家族の意見や要望を確認した上で同意を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録へ毎日時間を追って記載している。その他、介護日誌や連絡ノートを用い、情報の共有を図りながらケアに当たっている。		

静岡県(花平の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日会にはご家族と一緒に過ごされる時間や環境も支援している。かかりつけ医以外での受診もご家族の都合が合わなければ、施設にて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元ボランティアによる歌・踊りなどは随意受け付けている。部再訓練では消防署より訓練用消火器をお借りし、入居者と共に消火訓練も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関よりかかりつけ医を選択して頂き、職員から医師へ必要な情報を報告しながら定期的及び随時受診の付き添いを行っている。必要に応じ往診の依頼も行い、ご家族への報告も適時行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職でもあり、日々の様子と違う事があれば、すぐに連絡相談している。契約看護師への連絡や隣接する介護老人保健施設の看護師へも必要に応じ、協力を求めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	頻回に面会に伺い、状態の把握に努めると共に退院後も安心して戻ってこられるようにコミュニケーションを図っている。また、病院スタッフとも情報交換や相談をしながら関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の対応についてご家族へ説明を、食が細くなってきた時点でご家族と話し合い、改めて意向を確認している。看取りを希望されたご家族と同意書进行、ターミナルケアプランを作成している。法人内の研修も行いご家族の心のケアに対しても学んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿って全職員に対し、勉強会を実施している。法人全体の勉強会でも毎年行っている。		

静岡県(花平の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は避難訓練を行っている。近隣住民の方々にも参加して頂き、施設内の把握をしてもらいながら、車椅子を使った避難誘導などを行っている。目立つところへマニュアルを用意し、いつでも手に取る事が出来るようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職歴や生活歴を考慮し、その方の人格を尊重したうえで言葉掛けを行い、落ち着いた穏やかな対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物やドライブなど、希望を確認した上で一緒に出掛けている。その日に着る服もご自分で選んでもらえるように声掛けをし、確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や入居者様の要望・体調を考慮し毎朝の申し送り時に統一の予定を立てている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物ができる方は衣類などの購入時、ご自分で選んで頂くようにしている。意思表示をされない方にはご家族から好みを伺ったり、自宅にある好きな服を持ってきて頂くように依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をたてる際に、味噌汁の具材を相談したり、買い物への参加を呼びかけをしている。味見をして頂いたり、食器の片づけなど協力して下さる方へお願いしている。毎月の手作り食事会や出前、外食など好きなものを食べて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食チェックしている。嗜好も事前に確認しており、苦手なものは避けたり、食べにくい物は刻んだり、水分にトロミを付けたり、とその方に合わせた食事を提供している。		

静岡県(花平の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて歯磨きを行っている。困難な方に対しても歯科医や歯科衛生士から助言をもらいながら口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間チェック表を用い、排泄リズムを全職員が共有している。昼間はさりげない声掛けや見守りにより、トイレでの排泄を支援している。夜間はセンサー反応にてトイレ誘導や、あえてパット交換のみで対応する等その方の習慣や状態に合わせて対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂って貰うように、お茶だけでなくジュースやコーヒーなどお好きなものを提供している。随時便秘体操を行い、本人に合わせた下剤量もかかりつけ医と相談しながら、与薬している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴開始時間は15:30以降とし2~3日に一度は入って頂くが、入浴そのものは毎日準備し、だれでも入れる状況にしている。一般浴の他にミスト浴も完備し、状態に沿った支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝間着や寝具など、おれまでの習慣に合わせて、落ち着いて休まれるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ケースにそれぞれの容量を記載し、配役の都度確認している。副作用・用法については表をカルテに綴じ、いつでも確認出来るようにしている。連絡ノートに変更内容や副作用など注意事項も記載し、事前に把握ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・畑仕事・草取りなど、それまでご自宅で頑張ってこられた方や、入居中も頑張ってもらえる方には積極的に行って貰っている。		

静岡県(花平の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭には花壇や畑・池があり、日中自由に過ごすことが出来る。毎月の企画の中で外出を取り入れ、名所旧跡や花見・紅葉狩り等を行っている。誕生日会などは本人の希望に応じ、ご家族との外食・外出も相談している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理困難な方へも、ご家族よりお小遣いを預かり、買い物等の支払いを職員と一緒に出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方へご家族との電話を繋ぎ、直接話をして頂いている。年賀状もご家族へ出しているが、書けない方は代筆をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットそれぞれにキッチン・リビングがあり、洋風和風の差別を付けている。南面の窓から程好い光と風が入り、ゆったりとした空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには畳の間があったり、ソファが置いてあり、ゆったり過ごせるようになっている。居室もフロアに面しており、一人になりたい時は居室で過ごしやすくなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご自宅での本人の部屋に少しでも近づけられるよう、ご家族へ部屋の見取り図を依頼し、家具の配置も相談している。馴染みのある家具を持ちこんで頂き、仏壇を備えられるなど、その方らしい居室になるように支援している。寝て過ごされる事が多い方へはご家族の写真を貼ったり、曲を流したりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下周囲に手すりを取り付け、バリアフリーに徹している。トイレには車椅子の方が入れる広さを確保している。		